

団体名：COMPASS(拠点団体)

代表者名：太田 茂雄

電話：080-3804-4425

事業規模簿：20万円 ボランティアスタッフ数…2人

施設配布先：個人（日系ブラジル人、生活困窮者） 取り扱い量：2t

活動地域：滋賀県南部

住所：滋賀県草津市桜ヶ丘4丁目13-25

事業概要

滋賀県大津市を中心に高齢・定住外国人、生活困窮者へのパーソナル・サポート
毎月平均：40世帯 100名をサポート（1ヶ月限定や長期支援の使い分けをしている）

代表の太田氏は、よりよいホットラインの地域センター滋賀のコーディネーター、個別の相談業務は専門性と経験があり、的確な支援が行なっている。

ポイント

【2hjとの連携】

滋賀県内に関わらず、全国のよりよいホットライン業務を担っているため、緊急性が高く食糧を必要としている個人の方の案件があれば、2hjのパントリーと協力し、個別の食糧支援を行っている。

【フットワークの軽さ】

主要な活動自体はほぼ独りで担っている。行政窓口への繋ぎ、労働条件に対しての工場主への改善要求、食糧支援など個人でフットワークが軽く柔軟に対応することが可能である。

取り組みの経緯

リーマンショック以降に滋賀県内で派遣切りが多く行われ、真っ先に仕事を失った、在日ブラジル、ペルー人への支援活動を行なっている中、食べていけないという状況に直面することが多く、食糧支援の必要性を非常に感じ、インターネットで検索をしていた時に偶然、2hjのホームページを知ったところから接点をもち活動を始める。

活動方針

【日系人多数地域】

滋賀県という場所が全国有数の工業地帯で、定住外国人が期間工として労働する人が大半である。現時点では、困っていなくても将来確実に困る人がわかっている状況があるので、年間を通じて継続的なサポートを行なっている。

【食料確保の最優先事項】

就労支援や住宅確保ということも合わせて行うが、「食」という生活のベースが何よりも大事なので、最優先事項として、しっかりと時間と労力をかける。

【即応性】

電話一本で、必要性を感じた方に対しては、滋賀県内であれば直接面会をし、食糧支援を実施し、その人に合わせた支援を実施する。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動事例

【行政受け皿の限界】

救護施設が満床状態により、刑務所出所者及び発達障がい持ちの方の受け皿がない為に、個別巡回をし、サポートを行なっている。

【ホームレス支援】

琵琶湖の護岸にホームレスが多いので、自身の業務である寄り添いホットラインのチラシ渡しを提供して利用を促す。生活保護の受給サポート、住居申請、サロン活動(滋賀の反貧困ネットワーク)でのフォローをしている。

それが、社会的弱者の包摂化につながる活動となっている。

【労働福祉協議会】

労協との関係性もあり、労協各事業所(配食サービス)での去年の余剰米をいただいた。

提携食品企業

労働福祉協議会 (お米)

2h j からの防災備蓄品 (2, 3ヶ月に一度)

成果と課題

今後、NEC、ルネサスなどの大手企業の撤退により、多くの(約 1500 名)労働者の雇用が無くなり、定住外国人への雇用の場が一層減ることに危機感を抱いている。

今後は、賃料の低いエリアや同和地区など、低収入者・生活保護受給者が多いのでそこを重点的にカバーしたい。

【課題】

オーバーステイの定住外国人の住居、仕事、食糧のサポートを実施している団体がなく、継続的な関わり方を含めた、支援の実施必要性を感じているが、現状はよりそいホットラインでの業務に追われ、なかなか時間と労力をかけられない状況である。